

(別添 2)

No.	
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 長浜市産地 (作成主体:長浜市)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

長浜市は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約7割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、耐病性品種等への切り替えを実需の理解を得ながら早急に進め、単収の安定を実現する。

現在、長浜市においては、長浜市水田収益力強化ビジョン、転換作物拡大計画により水田収益力強化の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

- ・大麦については、本地域で生産している品種ファイバースノウは、全量が麦茶用として、県外の企業に販売されているが、実需の要望を超える生産量であり、生産量を調整する必要がある。
- ・小麦については、本地域で生産している品種農林61号は、県内外の製粉業者に販売されているが、大麦と同様、実需の要望以上の生産量となっている。
- ・大豆については、生産の8割以上を占める品種オオツルは、関西を中心に全国の加工食品企業に向けて販売されているが、近年、作柄の不安定さにより収穫量が減少している。より収穫量が高く、県全体の方針と連携を図りつつ加工適性の高い品種へ切替える必要。

### (2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については微増、大豆については減少傾向で推移している。大豆の単収は平成29年産は150kg/10aだったが、令和元年産は120kg/10aとなり、低下傾向となっている。一方、麦の単収は微増傾向にあるものの、地域によっては今なお排水対策等が不十分で、単収低下となっているほ場も見られ、大豆と同様、単収をより向上させる必要がある。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要だが、団地化率は下がっており、改善が課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)	
小麦	農林61号	(825)	827	(378)	379	(109)	109	(220)	220	(220)	220	(220)	220	(1,815)	1,819	(832)	833	(239)	239
大麦	ファイバースノウ	(237)	237	(633)	635	(966)	969	(400)	400	(400)	400	(400)	400	(950)	950	(2,532)	2,539	(3,866)	3,874
作物計		(1,062)	1,064	(1,011)	1,014	(1,075)	1,077	(260)	260	(333)	333	(382)	382	(2,764)	2,769	(3,364)	3,373	(4,104)	4,113

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)	
大豆	オオツル	(887)	888	(822)	823	(773)	774	(150)	150	(130)	130	(120)	120	(1,331)	1,332	(1,068)	1,070	(927)	929
作物計		(887)	888	(822)	823	(773)	774	(150)	150	(130)	130	(120)	120	(1,331)	1,332	(1,068)	1,070	(927)	929

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	農林61号	764	92.6%	335	88.4%	94	86.6%	
大麦	ファイバースノウ	201	84.6%	585	92.4%	873	90.3%	
作物計		965	90.8%	919	90.9%	967	90.0%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	オオツル	822	92.6%	775	94.3%	711	92.0%	
作物計		822	92.6%	775	94.3%	711	92.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

滋賀県の産地交付金の県設定メニュー等において、「団地」は概ね1ha以上の、同一作物が作付されているか、もしくは概ね2ha以上の団地が形成されている内同一作物について概ね1ha以上作付けされていることとされ、長浜市としても1haを基準として団地化を進めてきたことから、1haを団地の基準とする。  
ただし、湖北町山本地域は、先進的に団地化が進められていることから、4haを団地の基準としてより高度な団地化を進める。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。